

創立43年



本町小だより

令和7年度2月号 令和8年1月30日(金)発行

和光市立本町小学校

Tel 466-0855 Fax 466-0894

Email:honcho@wako-city.ed.jp

児童数 340名

「終わり」を「次への力」に変えるために

校長 木村 美香

さて、今年度も残すところあと二ヶ月となりました。今回は、ある有名な言葉を引いて、この時期の過ごし方について考えてみたいと思います。それは、「終わりよければ全て良し」という言葉です。

■「終わりよければ全て良し」を子供の励ましに

この言葉は、イギリスの劇作家シェイクスピアの喜劇のタイトル (All's Well That Ends Well) に由来すると言われています。「物事は、結末さえよければ、それまでの過程で起きた失敗や不手際は問題にならない」「途中でどんなに苦労や失敗があっても、最後を立派に締めくくれば、それまでの過程も報われる」という意味で使われます。

子供たちの中には、この一年を振り返り、「計算が苦手なままだった」「途中で投げ出してしまった」と、自分の至らなさに自信をなくしかけている子もいるかもしれません。そこで、この言葉をかけることで、「過去の失敗」を責めるものではなく、「今から、最後の一步をどう踏み出すかで、過去の意味は変えられる」という、未来に向けた力強い励ましにつながるのではないのでしょうか。

■「粘り強さ」を育む大人の眼差し

今の時代、すぐに結果が出ることや効率の良さが求められがちです。その影響もあり、「努力し続けること」や「粘り強く頑張ること」に苦手意識を持つ子供たちが少なからず見受けられます。

しかし、粘り強さとは、決して「休まず全力で走り続けること」だけではありません。「一度立ち止まっても、もう一度前を向くこと」「失敗しても、もう一回だけやってみようと思ひ直すこと」。この「しなやかな復元力」こそが、これからの時代を生き抜く本当の粘り強さであると考えています。

漢字を一文字丁寧に書く、脱いだ靴を揃える、勇気を出して挨拶をする。そんな小さな「最後の締めくくり」を積み重ねることで、子供たちは「自分はやればできる」という自己肯定感を持って次の学年へと進むことができます。

■地域・家庭と共に歩む節目

学校では、子供たちがこの一年間の成長を実感し、最高のフィニッシュを迎えられるよう、職員一丸となって支援してまいります。

保護者や地域の皆様におかれましても、結果の良し悪しだけでなく、子供たちが「最後の一步」を踏み出そうとする姿勢を、ぜひ温かく見守り、励ましていただければ幸いです。

三月の終わりに、本町小学校の全ての児童が「この一年、頑張ってたよかった！」と笑顔で胸を張って言えるよう、残りの日々を大切に歩んでまいります。